

●農業地域における生息環境情報の整理

[調査名：生息環境情報調査 (H19～23)]

調査地域	東北管内（8広域農業地域）	調査年度	H20
------	---------------	------	-----

【要約】

広域農業地域の北上川地域（9地区）及び阿武隈地域（1地区）の合計10地区の国営事業受益を対象として、既存資料を用いて生息環境を区分し、生息環境評価マップの作成を行った。

1. 調査の背景・ねらい

広域農業地域を対象に、農業農村整備事業に密接に関わる水辺の生物について、生育・生息環境の区分を行う生息環境評価マップを整備することにより、環境との調和に配慮した土地改良事業調査計画の効率化と事業による環境配慮の質的向上に役立てることを目的とした。

2. 成果の内容

【生息環境評価マップの作成】

水路構造、土地利用状況などの既存資料を用いて、生息環境の区分を行い、各区分を1/2.5万の地形図上に図示することにより、生息環境評価マップの作成を行った。

対象国営事業地区は、下表に示す10地区である。

地域名	国営事業地区名	事業種名	地区面積 (ha)	地区数
北上川	岩手山麓	開発	1,597	10地区
	盛岡南部	かん排	4,992	
	豊沢川	かん排	4,149	
	和賀中部	開拓	3,392	
	猿ヶ石川	かん排 開拓	6,463	
	胆沢平野	かん排	9,356	
	須川	開発	649	
	藤沢	開発	508	
	山王海Ⅰ、Ⅱ期	かん排	3,891	
阿武隈	名取	かん排	4,450	
合計			3,947	

本年度、生息環境評価マップを作成した10地区のうち、盛岡南部地区と豊沢地区の事例を以下に示す。

○盛岡南部地区（広域農業地域 北上川地域）

【盛岡南部地区の環境特性】（一部抜粋）

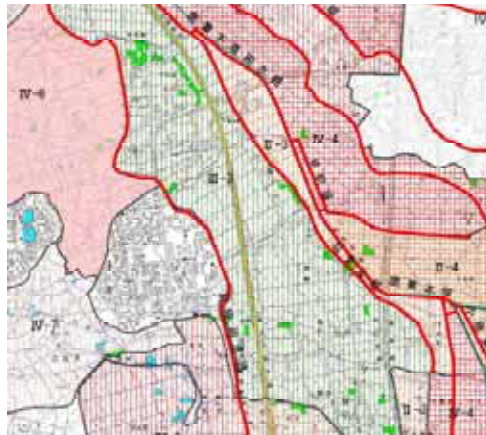
区分	Ⅱ-3	Ⅱ-4	Ⅲ-3	Ⅲ-4	Ⅳ-3	Ⅳ-4	Ⅳ-6	Ⅳ-7	10
水路構造	Ⅱ:2面張り	Ⅱ:2面張り	Ⅲ:3面張り	Ⅲ:3面張り	Ⅳ:パイプライン	Ⅳ:パイプライン	Ⅳ:パイプライン	Ⅳ:パイプライン	
土地利用	3:水田(小区画)	4:水田(中区画)	3:水田(小区画)	4:水田(中区画)	3:水田(小区画)	4:水田(中区画)	6:果樹地	7:小規模樹園地	市街地
環境特性	水路内の環境は、一様ではないが、水田との連続性は維持されている。	水路内の環境は、一様ではないが、水田との連続性はある程度維持されている。	水路内の環境は単調であるが、水田との連続性が維持されている。	水路内の環境は単調であるが、水田との連続性が維持されている。	パイプライン内に生息環境はないが、水田との連続性は維持されている。	パイプライン内に生息環境はないが、水田との連続性はある程度維持されている。	パイプライン内に生息環境はなく、樹園地においても水生動物の生息環境は限られる。	パイプライン内に生息環境はなく、樹園地においても水生動物の生息環境は限られる。	陸域は、市街地が広がり生息環境は貧弱である。
確認魚種					ギンブナ、ゲンゴロウブナ、モツゴ、シマドジョウ、ドジョウ、エゾイワナ、オオヨシノボリ	キンブナ、タナゴ、アブラハヤ、カマツカ、ニゴイ、ドジョウ、オオヨシノボリ、トウヨシノボリ、ギバチ			

担当部署	農村計画部資源課環境保全係	連絡先	022-263-1111（内線4129）
------	---------------	-----	----------------------

【盛岡南部地区の生息環境評価マップ】



(全体図)



(拡大図)

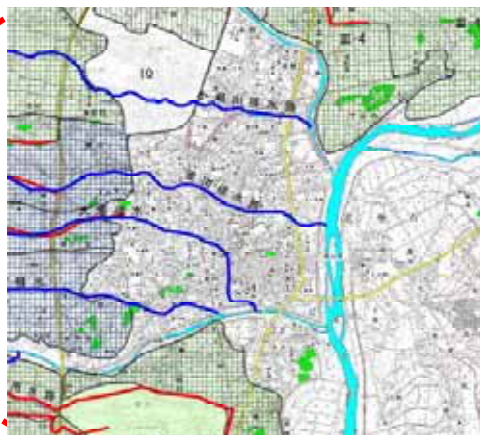
○豊沢川地区（広域農業地域 北上川地域）

【豊沢川地区の環境特性】（一部抜粋）

区分	I-3	I-4	II-3	II-4	III-3	III-4	IV-3	IV-4	10
水路構造	I：土水路	I：土水路	II：2面張り	II：2面張り	III：3面張り	III：3面張り	IV：パイプライン	IV：パイプライン	—
土地利用	3：水田 (小区画)	4：水田 (中区画)	3：水田 (小区画)	4：水田 (中区画)	3：水田 (小区画)	4：水田 (中区画)	3：水田 (小区画)	4：水田 (中区画)	市街地
環境特性	水路内の環境は、多様であり、水田との連続性も維持されている。	水路内の環境は、多様であり、水田との連続性もある程度維持されている。	水路内の環境は、一様ではないが、水田との連続性は維持されている。	水路内の環境は、一様ではないが、水田との連続性もある程度維持されている。	水路内の環境は単調であるが、水田との連続性が維持されている。	水路内の環境は単調であるが、水田との連続性はある程度維持されている。	パイプライン内に生息環境はないが、水田との連続性は維持されている。	パイプライン内に生息環境はないが、水田との連続性はある程度維持されている。	陸域は、市街地が広がり生息環境は貧弱である。
確認魚種						ウグイ、ヤマメ			



(全体図)



(拡大図)

3. 調査の課題

これまでの調査結果等を基に、管内の国営事業地区の特性に応じた作業手順の見直しを行い、効率的な調査の進め方を検討する必要がある。